

端材活用、アクセサリーに 大垣でSDGsマルシェ

大垣西濃信用金庫(大垣市)は9日、地元事業者が持続可能な開発目標(SDGs)を体感できるワークショップなどを提供する「SDGsつながるマルシェ」を、同市郭町の大垣公園と大垣城ホールで開いた。約1200人が訪れ環境に配慮した催しを楽しんだ。

マルシェはJPCーチ&コンサルティング(同市)、東京海上日動火災保険と共に開き、4回目。地元食材の飲食ブースを含め西濃地域の約50社が出展した。

このうち金型設計製作の「工和製作所」(垂井町)は、アルミの金型加工の際に出た薄くて円い端材を活用し、傘、ペットボトルなどに付ける目印アクセサリーや、クリスマスツリーを作る体験コーナーを設けた。参加した子どもらは星やハート形の飾りを貼り、お気に入りの品を仕上げて持ち帰った。家族と参加した長尾樹ちゃん(6)は「大切にしたい」と話していた。

大垣商業高校(同市)の生徒が企画段階から協力し、雑紙を丸めたボールのプールや段ボール迷路を設置。古着のフリーマーケットも行い、家族連れらに好評だった。(小森直人)



アルミの端材を使ってアクセサリーなどを作る子どもら
＝大垣市郭町、大垣公園